

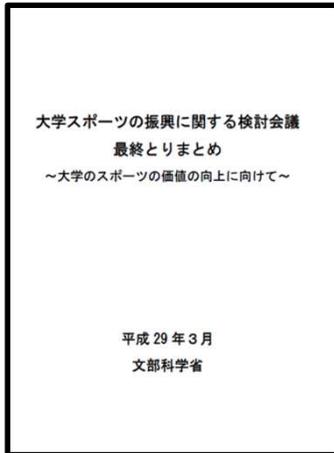
大学スポーツの充実

(地域の核となる大学スポーツ振興)



スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

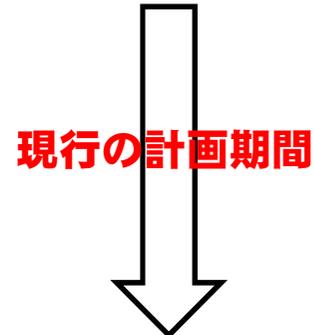
大学スポーツ政策のこれまでの流れ（第2期スポーツ基本計画の下で）



平成29（2017）年3月 大学スポーツの振興に関する検討会議 最終とりまとめ

- 大学や学生競技連盟を核とした大学横断的かつ競技横断的統括組織の創設のほか、
- ①大学スポーツの振興（安全・安心な大学スポーツ環境の確立、デュアルキャリア（社会で活躍できる能力等の育成）の推進、大学スポーツの価値向上・認知向上）、
②大学スポーツによる地域振興の取組の促進を提言。

平成29（2017）年3月 第2期・スポーツ基本計画



平成29（2017）年4月～ 大学スポーツ振興の関連予算を措置
【安全安心（大学の関与促進）、大学スポーツによる地域振興の促進】

平成31（2019）年3月 一社・大学スポーツ協会（UNIVAS）の設立
【UNIVASとの連携・協力（安全安心、デュアルキャリア、認知向上・価値向上）】

令和5（2022）年3月（予定） 第3期・スポーツ基本計画



引き続き、一社・大学スポーツ協会と連携・協力し、
コロナ禍に負けることなく、「感動する大学スポーツ」の実現に向けて、取り組んでいくことが重要。

（１）大学スポーツの振興

①安全・安心な大学スポーツ環境の確立

②デュアルキャリア（社会で活躍できる能力育成など）の推進

③大学スポーツの認知向上・価値向上

（２）大学スポーツによる地域振興

○地域振興の取組の促進

総合型地域スポーツクラブの運営、
地元の学校部活動への支援、大学ス
ポーツ施設の開放、スポーツ医科学
研究の地元への還元、スポーツボラ
ンティアの普及啓発など

第2期スポーツ基本計画における主な記載

[第2期計画策定時（～H28）の主な現状と課題]

- ・大学におけるスポーツ活動には、大学の教育課程としての体育授業、学問体系としてのスポーツ科学及び課外活動等の側面があり、全ての学生がスポーツの価値を理解することは、大学の活性化やスポーツを通じた社会発展につながる。
- ・大学のスポーツ資源（学生、指導者、研究者、施設等）の活用は、国民の健康増進や障害者スポーツの振興に資するとともに、経済・地域の活性化の起爆剤となり得る。また、「みる」スポーツとしても潜在力がある。
- ・指導者やボランティアの育成、アスリートのキャリア形成支援など、大学は質の高いスポーツ人材の育成に重要な役割を担っている。
- ・より多くの学生がスポーツに取り組む環境を整備することが必要である。
- ・一方、各大学においてスポーツの振興に係る体制が不十分な場合が多く、また、大学スポーツ全体を統括し、その発展を戦略的に検討する組織がない。

【施策目標】

我が国の大学が持つスポーツ資源を人材輩出、経済活性化、地域貢献等に十分活用するとともに、大学スポーツ振興に向けた国内体制の構築を目指す。

[主な具体的施策]

- ▶ 大学関係団体と連携し、大学スポーツの重要性について大学トップ層を始め、広く大学関係者全体の理解を促進することにより、大学スポーツ振興の機運を醸成する。
- ▶ 大学におけるスポーツ分野を戦略的かつ一体的に管理・統括する部局の設置や人材の配置を支援することにより、大学スポーツやそれらを通じた大学全体の振興を図るための体制整備を促進する。（大学スポーツアドミニストレーターを配する大学：目標100大学）
- ▶ ①学生アスリートのキャリア形成支援・学修支援、②大学スポーツを通じた地域貢献、③障害者スポーツを含めたスポーツ教育・研究の推進、④スポーツボランティアの育成、⑤大学スポーツの振興のための資金調達力の向上等の大学スポーツの振興に係る先進事例を支援することなどにより、大学の積極的な取組を推進する。
- ▶ 大学及び学生競技連盟等を中心とした大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）の創設を支援することにより、大学スポーツ振興に向けた国内体制の構築を図る。

第2期計画期間における取組の成果・課題

成果

第2期計画と同時期にとりまとめられた「大学スポーツの振興に関する検討会議最終とりまとめ ～大学スポーツの価値の向上に向けて～」の提言に基づき、以下の施策を推進・実施した。

- 大学スポーツの重要性について、UNIVASとも連携・協力し、大学トップ層を始め、広く大学関係者全体の理解を促進することにより、大学スポーツ振興の機運を醸成した。
- 大学スポーツアドミニストレーターの配置に取り組む大学をモデル的に支援し、大学スポーツやそれらを通じた大学全体の振興を図るための体制整備を促進した。
- 大学スポーツによる地域振興等に取り組む大学をモデル的に支援し、大学の積極的な取組を推進した。
- 大学スポーツの振興に関する検討会議（平成28年度）、日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会（平成29年度）を経て、平成30年3月に一社・大学スポーツ協会（UNIVAS）を設立し、大学スポーツ振興に向けた国内体制を構築した。

課題

- 大学スポーツ振興について、一定の機運醸成はできたが、現状では、体育・スポーツ学部を有する大学や、大学スポーツ振興を経営方針としている大学が中心となっている等、大学の特性によって濃淡があり、大学内における機運醸成や地域の活性化資源として期待される地方大学による地域への貢献の推進等が必要。
- 大学におけるスポーツ分野を戦略的かつ一体的に管理・統括する体制整備を広げていくことは引き続き必要であるが、従来の「大学スポーツアドミニストレーター」の配置に加えて、規模やミッションなどそれぞれの大学の特性に応じた柔軟な対応が必要。
- 大学スポーツ振興に取り組む際には、「大学スポーツの振興」とともに、「大学スポーツによる振興」（地域振興）を自覚的に意識する必要。
今後はモデル的な事例の横展開、普及促進が必要だが、事例数がまだ少なく、また、個々の取組でも多様性が十分でないため、取組の深化が必要。
- 一社・大学スポーツ協会は独立した民間団体であることを踏まえつつも、設立から2年強となることから、今後の連携・協力はどのような形であるべきか、その発展をどうサポートしていくかを検討が必要。

課題の分析（原因・背景）

前頁で示した課題

- 大学スポーツ振興について、大学内における機運醸成や地域の活性化資源として期待される地方大学による地域への貢献の推進等の更なる進展が必要。

（原因・背景）

▶ ◆大学スポーツ振興について、一定の機運醸成はできたが、現状では、体育・スポーツ学部を有する大学や、大学スポーツ振興を経営方針としている大学が中心となっている等、いまだ大学の特性によって活動に濃淡がある状況。

前頁で示した課題

- 大学におけるスポーツ分野を戦略的かつ一体的に管理・統括する体制を広げていくためには、従来の「大学スポーツアドミニストレーター」の配置に加えて、規模やミッションなどそれぞれの大学の特性に応じた柔軟な対応が必要。

（原因・背景）

▶ ◆第2期計画の目標として大学スポーツアドミニストレーター（SA）の配置数100を設定、促進してきたが、現状設置されている大学は限定。大学によっては、SAの配置に人材的・財源的なハードル。
◆安全安心な大学スポーツ環境の確保などの点で、大学におけるスポーツ分野を戦略的かつ一体的に管理・統括する体制整備を広げていくことは引き続き必要。

課題の分析（原因・背景）

前頁で示した課題

- 大学スポーツ振興に取り組む際には、「大学スポーツの振興」とともに、「大学スポーツによる振興」（地域振興）を自覚的に意識する必要。
 今後はモデル的な事例の横展開、普及促進のため、取組の深化が必要。

（原因・背景）

▶ ◆ 今後はモデル的な事例の横展開、普及促進が必要だが、事例数がまだ少なく、また、個々の取組でも多様性が十分でない

前頁で示した課題

- 一社・大学スポーツ協会が独立した民間団体であることを前提としつつ、今後の連携・協力はどのような形であるべきか、その発展をどうサポートしていくかを検討する必要。

（原因・背景）

▶ ◆ （一社）大学スポーツ協会が設立から2年強となる状況。

- 課題の原因・背景を踏まえ、第3期計画において取り組むべき施策の方向性（案）
- ／ 施策の方向性（案）を具体化するための主な施策（案）
 - ／ 施策の進捗を測るために置くべき数値目標（案）

前頁で示した課題の原因・背景

- ◆大学スポーツ振興について、大学内における機運醸成や地域の活性化資源として期待される地方大学による地域への貢献の推進等の更なる進展が必要。
- ◆大学におけるスポーツ分野を戦略的かつ一体的に管理・統括する体制を広げていくためには、「大学スポーツアドミニストレーター」の配置に加えて、規模やミッションなどそれぞれの大学の特性に応じた柔軟な対応が必要。
- ◆大学スポーツ振興に取り組む際には、「大学スポーツの振興」とともに、「大学スポーツによる振興」（地域振興）を自覚的に意識する必要。今後はモデル的な事例の横展開、普及促進のため、取組の深化が必要。
- ◆一社・大学スポーツ協会が独立した民間団体であることを前提としつつ、今後の連携・協力はどのような形であるべきか、その発展をどうサポートしていくかを検討する必要。

【施策の方向性（案）】

- ✓ 大学横断的かつ競技横断的な大学スポーツの全国統括団体（UNIVAS）と一層連携・協力して、「する」「みる」「ささえる」といった面で大学スポーツ自体の競技振興を図るとともに、大学スポーツによる地域振興を促進する。

【具体的な主な施策（案）】

1 国の役割

〔総論〕

- ・国は、平成28年に設置された「大学スポーツの振興に関する検討会議」などで議論し整理された、（1）大学スポーツの振興（①安全・安心な大学スポーツ環境の確立、②デュアルキャリアの推進、③大学スポーツの価値向上・認知向上）、（2）大学スポーツによる地域振興といった分野について、UNIVASと連携・協力して、引き続き着実に取組を進め、「感動する大学スポーツ」の実現を目指す。

〔各論〕

- ・国は、大学スポーツ振興の土台となる機運を醸成・拡大するため、大学スポーツの重要性について、大学関係者が集まる場等を積極的に活用し、広く大学関係者全体、特に大学トップ層の理解をさらに促進する。
- ・国は、コロナ禍での経験などを踏まえ、各大学における大学スポーツを振興する体制整備をさらに全国の大学へ広げていくため、第2期計画の下で推進してきた大学スポーツアドミニストレーターの配置に加え、各大学の規模やミッションに応じた手法により、大学スポーツへの適切な関与・支援体制の構築を加速化する。
- ・国は、大学が地域における重要な存在として役割を担うことができるよう、先進事例の情報提供等により、大学スポーツが有する資源（施設、人材、知的資源など）を存分に活用した地方創生を推進する。

2 団体の役割

- ・UNIVASは、国から独立した民間団体であることを前提とした上で、日本らしい大学スポーツの全国統括団体として、大学スポーツ振興という目的を共有する国と連携・協力した取組を進め、「感動する大学スポーツ」の実現に努める。

【施策の進捗を測る数値目標（案）】

- P 大学スポーツへの関心度の向上【アウトカム指標】
※測定方法について要検討（アンケート調査の実施を検討中）
- ・地域振興に取り組む大学の割合（24%→65%）【アウトカム指標】
※大学に対するアンケートで把握することを検討

參考資料

高等教育機関への進学率（令和2年度学校基本調査）

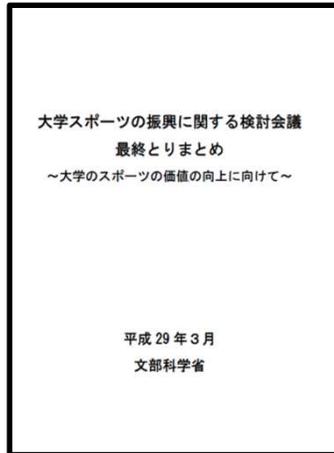
大学進学率は、54.4%（大学・短期大学進学率は58.6%）となり過去最高。（2021年3月）

図3 高等教育機関への進学率



- (注) 1 高等教育機関進学率 = $\frac{\text{大学(学部)・短期大学(本科)入学者, 高等専門学校4年在学者及び専門学校入学者}}{\text{18歳人口(3年前の中学校・義務教育学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者)}}$
- 2 大学(学部)進学率 = $\frac{\text{大学(学部)の入学者}}{\text{18歳人口(3年前の中学校・義務教育学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者)}}$
- 3 短期大学・専門学校の進学率は、(注)2 計算式の入学者部分にそれぞれの入学者を当てはめて算出。
高等専門学校4年進学率は、同部分に4年生の学生数を当てはめて算出。
- 4 □で囲んだ年度は、最高値である。

大学スポーツ政策のこれまでの流れ（第2期スポーツ基本計画の下で）



平成29（2017）年3月 大学スポーツの振興に関する検討会議 最終とりまとめ

- 大学や学生競技連盟を核とした大学横断的かつ競技横断的統括組織の創設のほか、
- ①大学スポーツの振興（安全・安心な大学スポーツ環境の確立、デュアルキャリア（社会で活躍できる能力等の育成）の推進、大学スポーツの価値向上・認知向上）、
②大学スポーツによる地域振興の取組の促進を提言。

平成29（2017）年3月 第2期・スポーツ基本計画

現行の計画期間

平成29（2017）年4月～ 大学スポーツ振興の関連予算を措置
【安全安心（大学の関与促進）、大学スポーツによる地域振興の促進】

平成31（2019）年3月 一社・大学スポーツ協会（UNIVAS）の設立
【UNIVASとの連携・協力（安全安心、デュアルキャリア、認知向上・価値向上）】

令和5（2022）年3月（予定） 第3期・スポーツ基本計画

引き続き、一社・大学スポーツ協会と連携・協力し、
コロナ禍に負けることなく、「感動する大学スポーツ」の実現に向けて、取り組んでいくことが重要。

（１）大学スポーツの振興

①安全・安心な大学スポーツ環境の確立

②デュアルキャリア（社会で活躍できる能力育成など）の推進

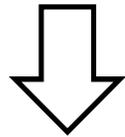
③大学スポーツの認知向上・価値向上

（２）大学スポーツによる地域振興

○地域振興の取組の促進

総合型地域スポーツクラブの運営、
地元の学校部活動への支援、大学ス
ポーツ施設の開放、スポーツ医科学
研究の地元への還元、スポーツボラ
ンティアの普及啓発など

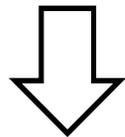
平成28（2016）年4月～
大学スポーツの振興に関する検討会議



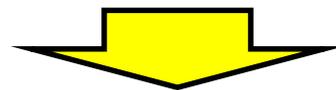
平成29（2017）年3月 大学スポーツの振興に関する検討会議最終とりまとめ

- 大学や学生競技連盟を核とした大学横断的かつ競技横断的統括組織の創設に向けた議論が必要

平成29（2017）年9月～
日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会



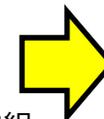
平成30（2018）年7月～
UNIVAS設立準備委員会



UNIVAS

平成31（2019）年3月 一社・大学スポーツ協会（UNIVAS）の設立

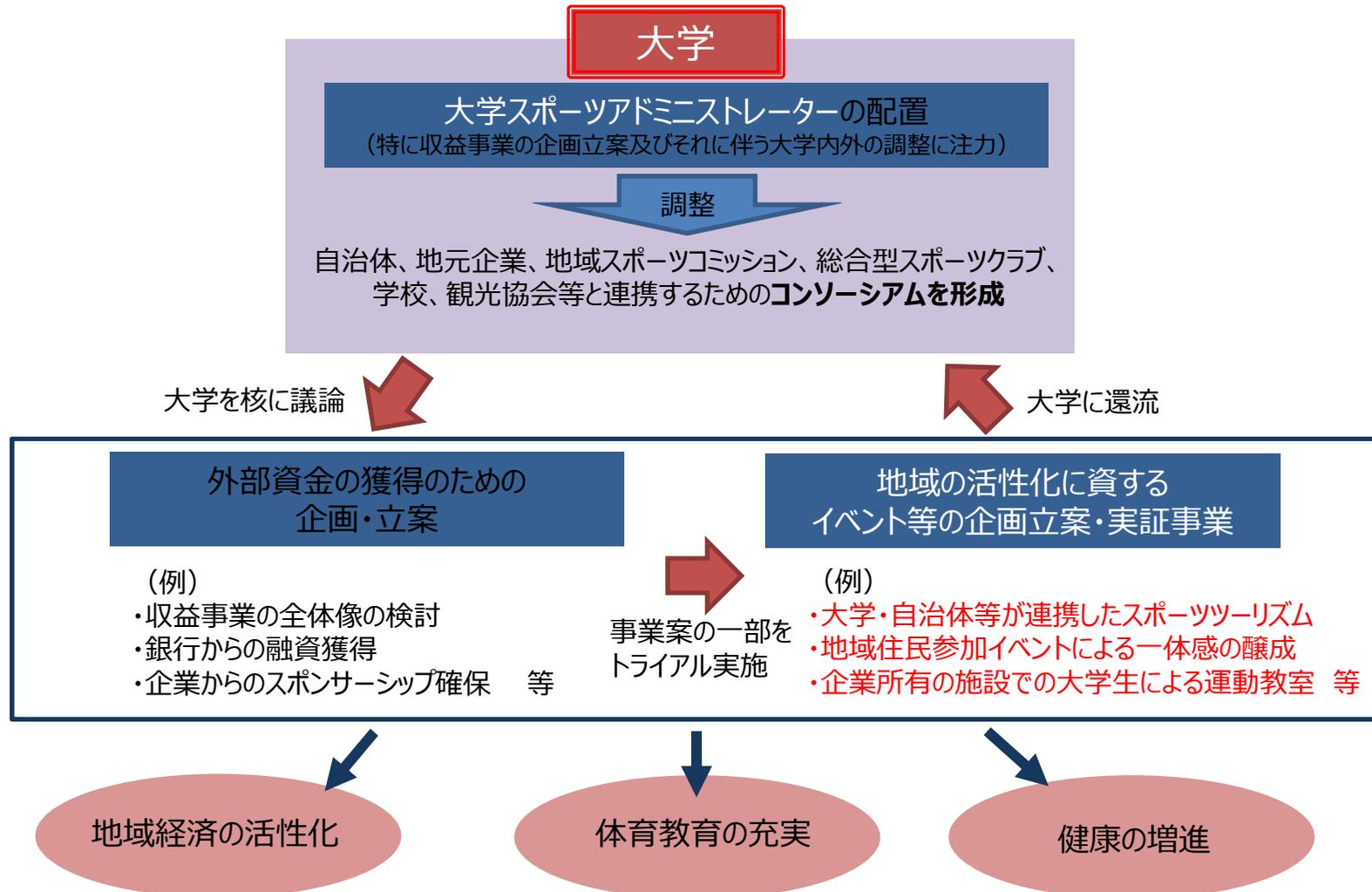
- 現在、218大学、36競技団体が加盟
- 安全安心な大学スポーツ環境、デュアルキャリア、大学スポーツの認知向上・価値向上に取り組



UNIVASと
連携・協力して、
大学スポーツ政策
を推進！

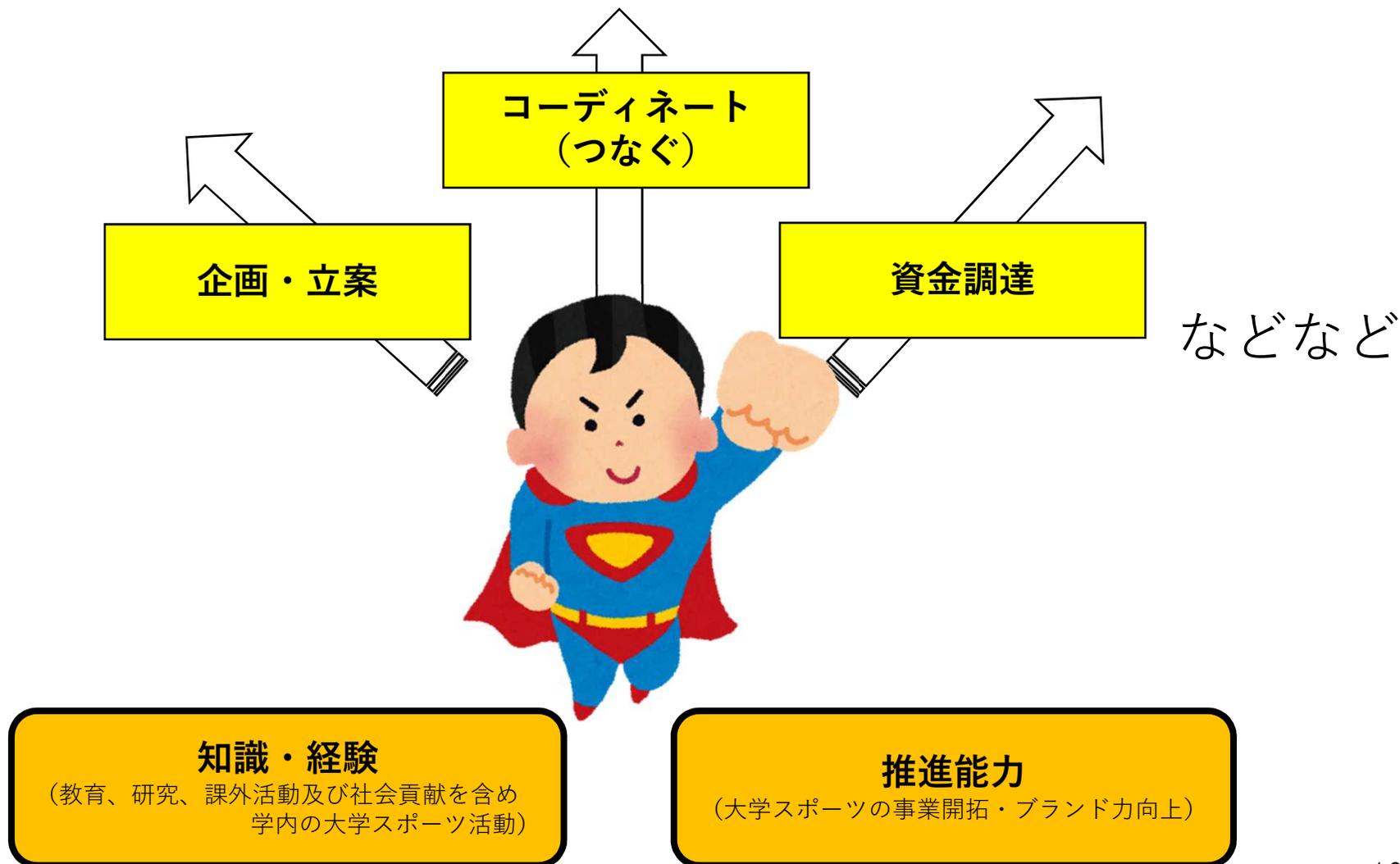
大学におけるスポーツ分野を戦略的かつ一体的に管理・統括する部局・人材（※）の設置・配置を促進し、大学スポーツによる地域振興などへの全学的な取組を推進するため、そうした取組を行おうとする大学をモデル的に支援し、全国への横展開を推進。

※ 大学スポーツアドミニストレーター：教育、研究、課外活動及び社会貢献を含め学内のスポーツ活動に一定の知識・経験を有しつつ、大学スポーツの事業開拓とブランド力の向上を推進する力を有し、学内のスポーツ活動の企画立案、コーディネート、資金調達等を担う者。



「大学スポーツアドミニストレーター」とは？

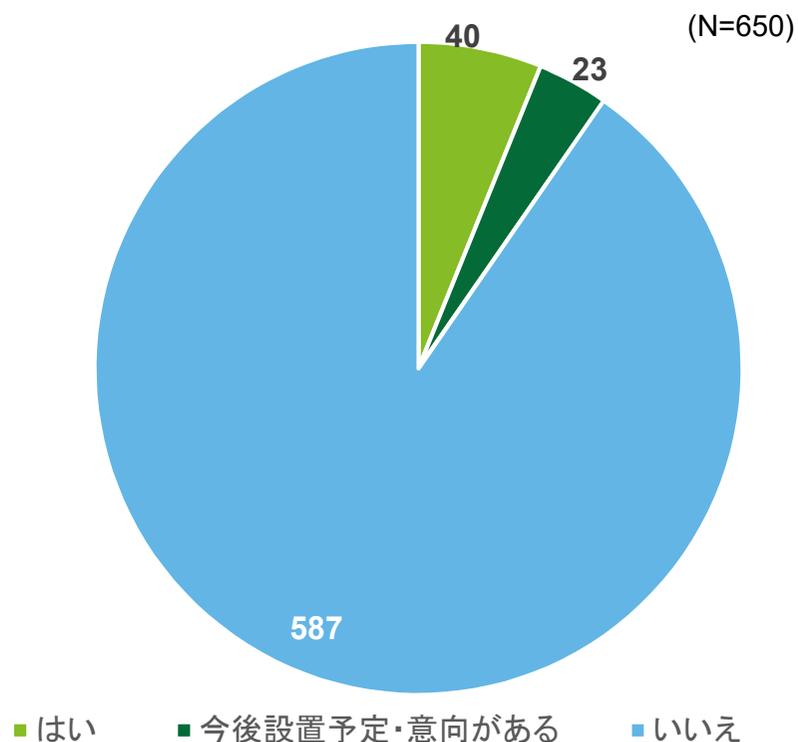
- ・教育、研究、課外活動及び社会貢献を含め学内のスポーツ活動に一定の**知識・経験**を有しつつ
- ・大学スポーツの事業開拓とブランド力の向上を**推進する能力**を有し、
- ・学内のスポーツ活動の**企画立案、コーディネート、資金調達**等を担う者。



大学スポーツアドミニストレーターの配置状況

年々配置が増加してきたものの、現行計画の最終年度の令和3年度でも、全国の大学を対象にしたアンケート（回答数650／1,118大学）において、**SAが配置されていると答えた大学は、わずか40大学**

学内で大学スポーツアドミニストレーター（※1）を配置していますか。

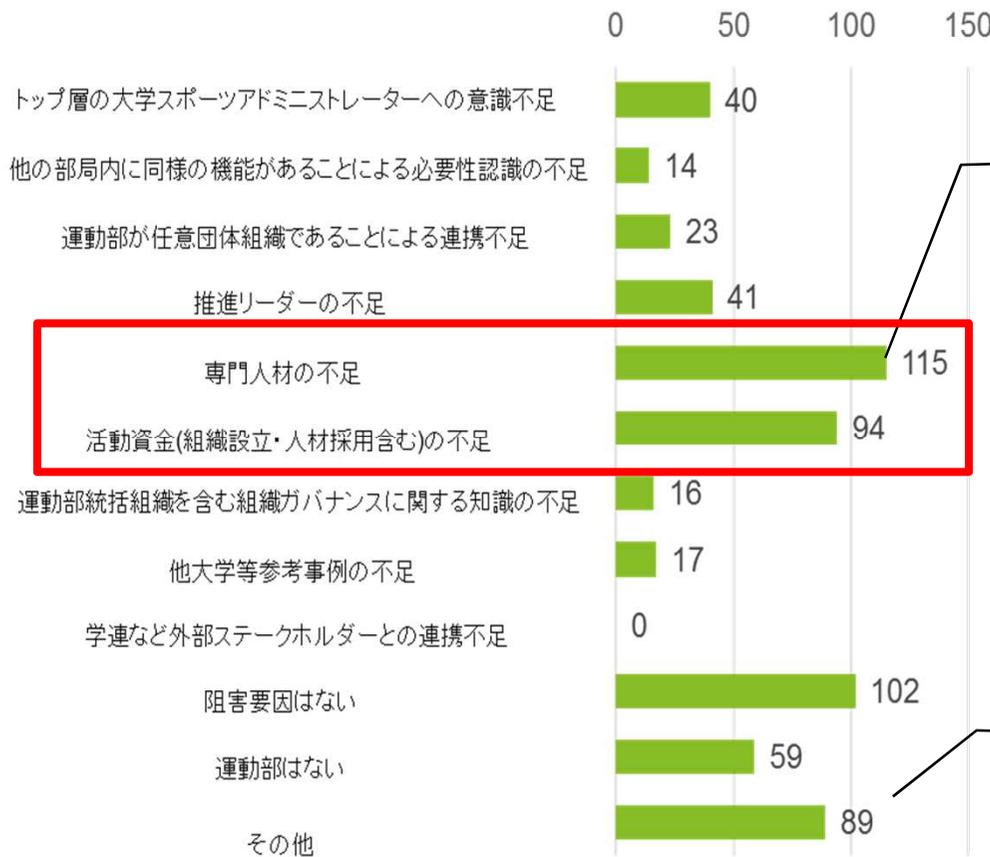


※1 教育、研究、課外活動及び社会貢献を含め学内のスポーツ活動に一定の知識・経験を有しつつ、大学スポーツの事業開拓とブランド力の向上を推進する力を有し、学内のスポーツ活動の企画立案、コーディネート、資金調達等を担う者。例えば、大学のスポーツ施設の活用を検討する場合には、大学の仕組み（法制度、学則、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッション・ポリシー）、学事日程）だけでなく、スポーツ施設の運営方法や収益モデルも理解しながら、学内外を調整して大学スポーツを円滑に推進する者。

大学スポーツアドミニストレーター配置の阻害要因

アンケートの結果を踏まえれば、オールラウンダーのSAの配置を、全ての大学に求めることは、人材的にも財源的にもハードルが高く、必ずしも現場のニーズに対応していない。

(大学SAの配置について「今後配置予定・意向がある」、「いいえ」と回答した場合)
大学スポーツアドミニストレーター配置を推進する上での阻害要因のうち、
最も影響が大きいと考えている要因



配置の阻害要因として「専門人材の不足」を挙げた大学のうち、「配置の予定・意向がない」と回答した大学 112大学

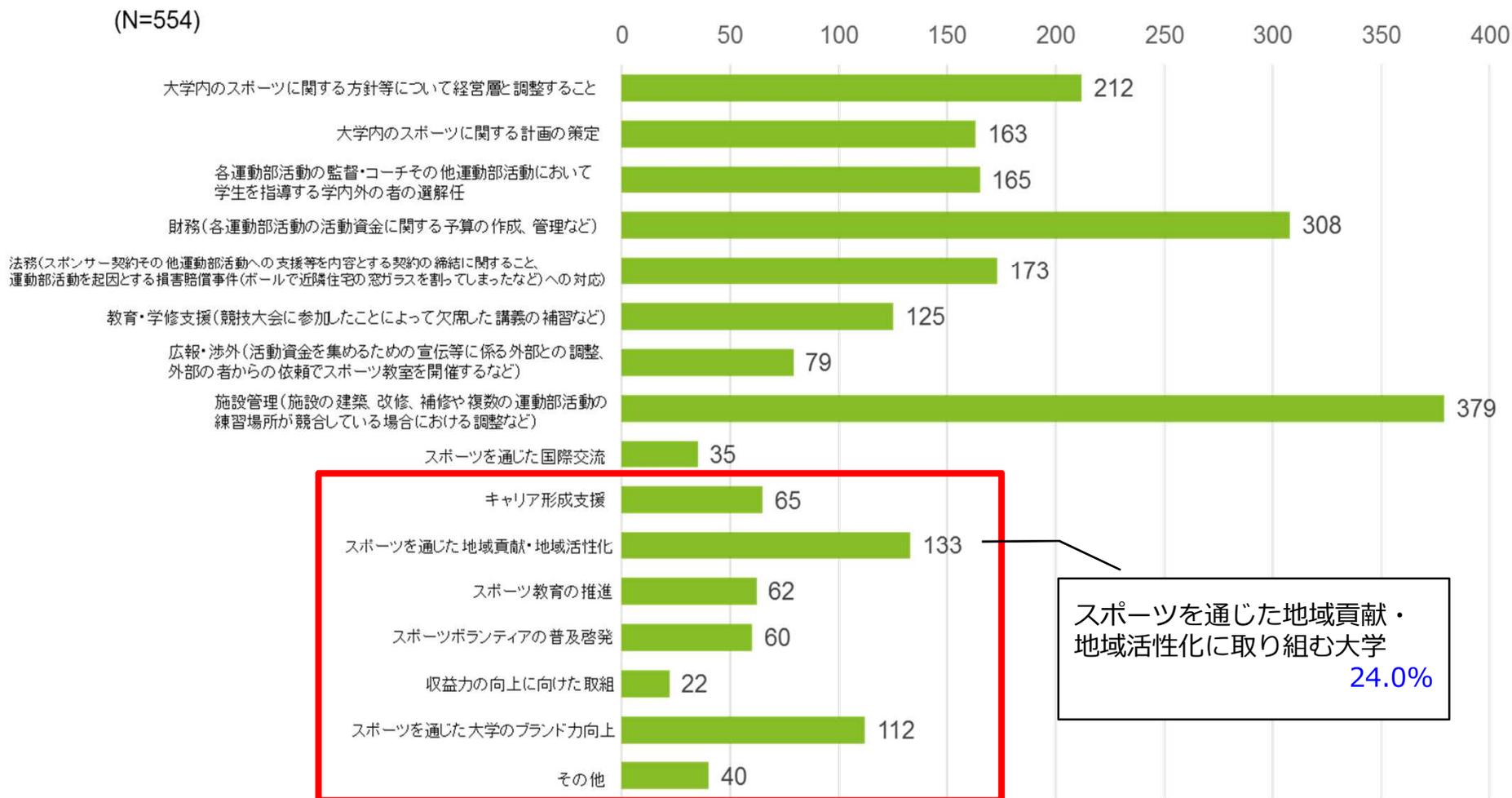
SAとして要求される専門性の高さが、配置する意向を奪っている可能性

その他の自由記述
スポーツアドミニストレータの役割を組織で担保することで、アドミニストレータを配置しないことに問題を感じない。
スポーツに特化した大学ではないため、配置の必要性があるのか。

運動部の統括や支援を行っている組織が行っている業務

大半が施設や予算の管理にとどまり、キャリア形成支援や、地域貢献・地域活性化、ブランド力向上、収益力の向上等に取り組めていない。

運動部の統括や支援を行っている組織が行っている業務（複数回答）



大学自身が大学スポーツに期待すること

66.7%の大学が、大学スポーツに期待することとして、「大学スポーツを通じた地域貢献」を掲げている。

大学スポーツに期待すること

(N=650)

